

子どもの貧困対策 全国47都道府県キャラバン in 沖縄 報告書



2016年7月23日、子どもの貧困対策全国47都道府県キャラバン(以下、全国キャラバン)が沖縄県からスタートしました。全国キャラバンは、さらに多くの人々が子どもの貧困対策への理解を深め、より充実した民間や自治体の支援体制を構築するきっかけと場づくりを通じたつながりをつくることで、全国各地の子どもの貧困対策の推進に寄与することを目的に開催する3ヶ年プロジェクトです。全国キャラバン in 沖縄は沖縄船員会館で開催され、第一部には約70人、第二部には約30人が集まりました。

第一部の全体会では、はじめに沖縄県知事より「各都道府県で開催する予定と聞いておりますが、先陣を切って沖縄県からスタートすることについて大変嬉しく思います」と来賓のご挨拶をいただきました(子ども生活福祉部長・金城弘昌氏 代読)。

続いて、沖縄県子ども生活福祉部青少年・子ども家庭課子ども未来政策室室長・喜舎場健太氏、しんぐるまざあず・ふおーらむ沖縄代表・秋吉晴子氏、ももやま子ども食堂理事長・鈴木友一郎氏の3人からは『私が思う、子どもの貧困』をテーマにそれぞれの立場からご報告いただきました。

その後、パネルディスカッションでは『子どもの声を地域の大人で受け止める』をテーマに、県内高校生代表と社会的養護を経験した若者をはじめ、沖縄県子ども総合研究所所長・堀川愛氏、沖縄青少年自立援助センターちゅらゆい代表理事・金城隆一氏、にじのはしファンド 代表・系数未希氏にご登壇いただきました。



コーディネーターも学生が務め、「不登校の子どもが学校へ行こうと一歩を踏み出したのに、髪の色や身なりで学校へ入れてもらえなかった。まずは“よく来たね”と声をかけて子どもの気持ちを理解してほしい」「子どもは“大人が喜ぶ”ように様子を見て振る舞っている。“楽しい?”と聞かれれば、楽しいとしか答えられない子どももいる。子どもにとって本当に必要としている支えは、何なのかよく考えなければいけない」など活発な議論が交わされました。



第二部の意見交換では、子どもを取り巻く環境や関わりのある人を整理する「沖縄県の子どもの貧困対策ステークホルダーマップづくり」を行い、自治体や支援者、学生など様々な立場の人が立場を超えて議論を行いました。

意見交換の時間では「自分が子どもの頃に身近なお店で助けてもらったことがあった。その経験から、子どものステークホルダーにはコンビニやカフェなども含まれており、何か一緒にできることを考えてみたい」「沖縄の人は戦争や基地など歴史的問題から声をあげても“否定”されてきた。子どもの声を受け止めて“肯定”するためには、子どもの貧困だけでなく、沖縄が抱える諸問題を同時に解決していかなければいけない」など多くの意見が交わされました。



参加者からは「子どもの教育の不平等を何とかしたい、何か私にできることはないかと思い参加しました。現状も何も知らない状態だったので、学ぶことばかりでした。また、何とかしたいという思いもより強くなりました(20代・女性)」、「様々な角度から子どもの貧困対策に携わる方の声が聴けました。この“もやもや”を持って帰って、自分にできることを更に考えたいと思います(30代・女性)」「生の声が聴けたのが良かった。子どもの気持ち、支援者の思い、見ている視点を聴けて良かった。子どもの学習面や給付金だけではなく、心のケアや成長の支援の大切さを学べた(20代・男性)」「うなづく話が多かった。特に社会的な成功者になってほしいという思いではなく、自分がどう愛された、大事にされたという思いを持ってもらえるかが大事(50代・男性)」「学校が生徒たちを受け入れる場であり、安心できる場であるよう私たち教師や教師を志す人も取り組む必要があると考えます。ぜひ声を現場に届けてほしいと思いました(30代・高校教員)」などの感想をいただきました。

【子どもの貧困対策 全国47都道府県キャラバン in 沖縄】

日時：2016年7月23日(土) 第一部 10時～12時30分 第二部 13時30分～16時45分
 場所：沖縄船員会館／主催：公益財団法人あすのば／後援：内閣府、沖縄県、那覇市
 参加者：第一部 約70人 第二部 約30人 合計 延べ約100人が参加

